

I 基本的属性

1 全就業者に対する調査回答者の特徴

(1) 会員全体の特徴

1997年3月の会員数は、444,604名である。1996年の就業者数と会員数ならびに入会率を業務別に示したのが〈表1〉である。1993年の入会率と比較して4業務の合計では1ポイント増加している。業務別では、「保健婦・士」の入会率が減少したが「助産婦」の入会率は増加している。

全就業者の業務構成と会員の業務構成を比較したものが〈図1〉である。全就業者に比べて会員の

ほうが「看護婦・士」の比率が高く「准看護婦・士」の比率が低い。

(2) 調査回答者の特徴

全就業者の年齢構成と今回の調査回答者（会員）の年齢構成を業務別に比較したものが〈図2〉である。ここでいう「業務別」とは、現在どのような働き方をしているかについて「保健婦・士」「助産婦」「看護婦・士」「准看護婦・士」「看護教員」「その他」の6つに分類し、回答を求めた。

「保健婦・士」「助産婦」「看護婦・士」「看護教員」は、全就業者と調査回答者の年齢構成がほぼ同じ

表1 業務別入会率

	計	保健婦・士	助産婦	看護婦・士	准看護婦・士
平成8(1996)年末全就業者(人)*	1,033,244	35,566	24,129	565,918	407,631
平成9(1997)年3月末会員(人)**	444,604	22,698	17,077	336,943	67,886
平成9(1997)年度入会率(%)***	43.0	63.8	70.8	59.5	16.7
平成5(1993)年度入会率(%)****	42.0	70.3	64.4	59.8	17.0

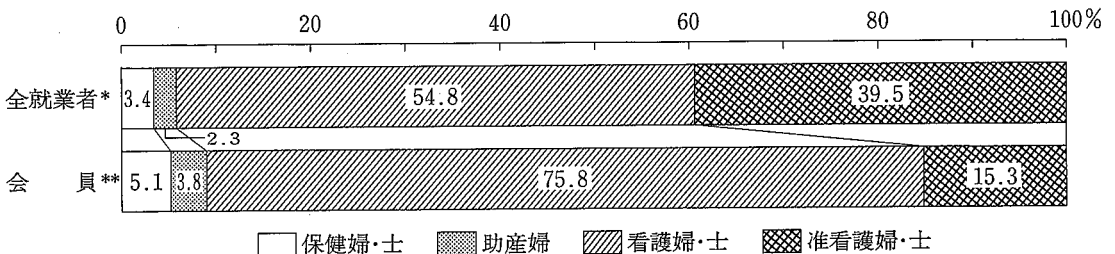
* 平成8(1996)年末の全国の就業者数(看護問題研究会監修:平成10年「看護関係統計資料集」より)

** 平成9(1997)年3月末の会員数

*** 入会率 = $\frac{\text{会員}}{\text{全就業者}} \times 100$

**** 平成5(1993)年末入会率

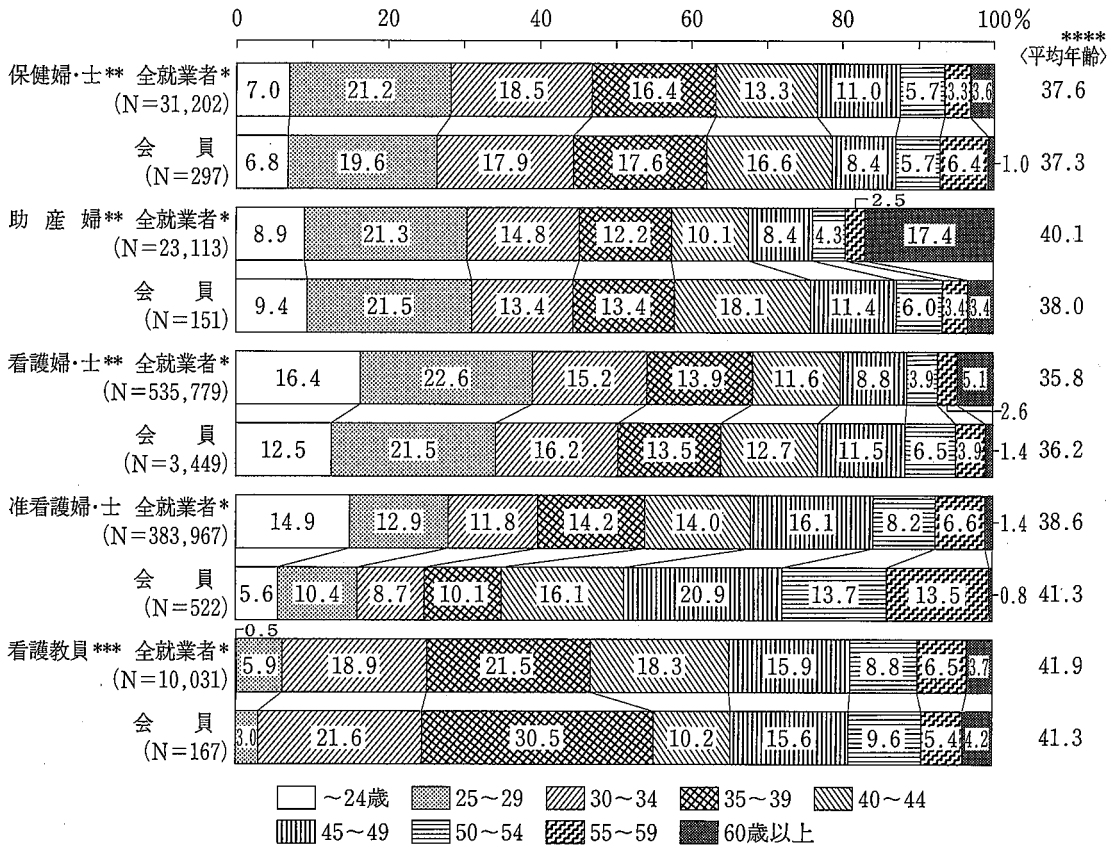
図1 業務別構成—全就業者と調査回答者(会員)との比較



* 平成8(1996)年末の全国の就業者数(看護問題研究会監修:平成10年「看護関係統計資料集」より)

** 平成9(1997)年3月末の会員数

図2 業務別年齢構成—全就業者と調査回答者(会員)との比較



*「全就業者」は、「衛生行政報告(厚生省報告例, 平成8年末)」による。
 **「保健婦・士」「助産婦」「看護婦・士」については、「学校・養成所」に勤務する者を除く。
 ***「看護教員」については、「保健婦・士」「助産婦」「看護婦・士」のうち、「学校・養成所」に勤務する者を合計した。
 ****「平均年齢」のうち、全就業者については推計値。

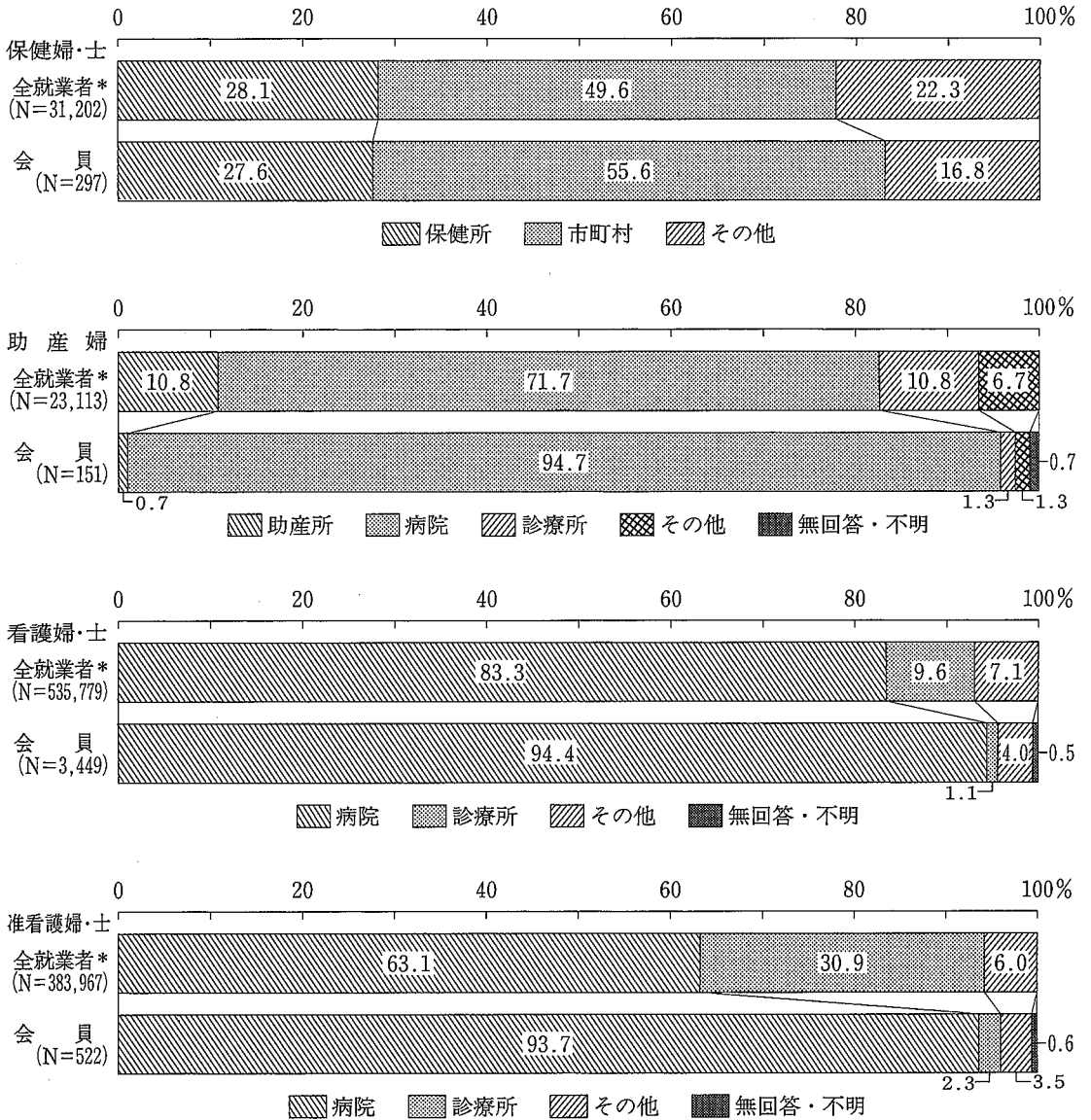
であるが、「助産婦」では全就業者より調査回答者のほうが60歳以上の構成比が低い。「准看護婦・士」では、全就業者よりも調査回答者のほうが20代の構成比が低い。これらの傾向は前回93年度調査と同様であった。

全就業者の勤務場所の構成と今回の調査回答者の勤務場所を業務別に比較したのが〈図3〉である。「保健婦・士」では、調査回答者のほうが「市町村」勤務者がやや多い。「助産婦」「看護婦・士」「准看護婦・士」では調査回答者のほとんどが病院勤務である。

病院勤務者について全就業者と今回の調査回答者を病院の設置主体別、病床規模別に比較したものが〈図4〉である。

調査回答者の勤務する病院は、国や自治体などの公的病院の比率が高く、医療法人・個人などの民間病院に勤務している者の比率は低い。病床規模別にみると、調査回答者は全就業者と比べて300床以上の病院に勤務する比率が高い。この傾向は前回調査と同様である。

図3 勤務場所別構成—全就業者と調査回答者(会員)との比較



*全就業者は「衛生行政報告(厚生省報告例,平成8年末)」による。

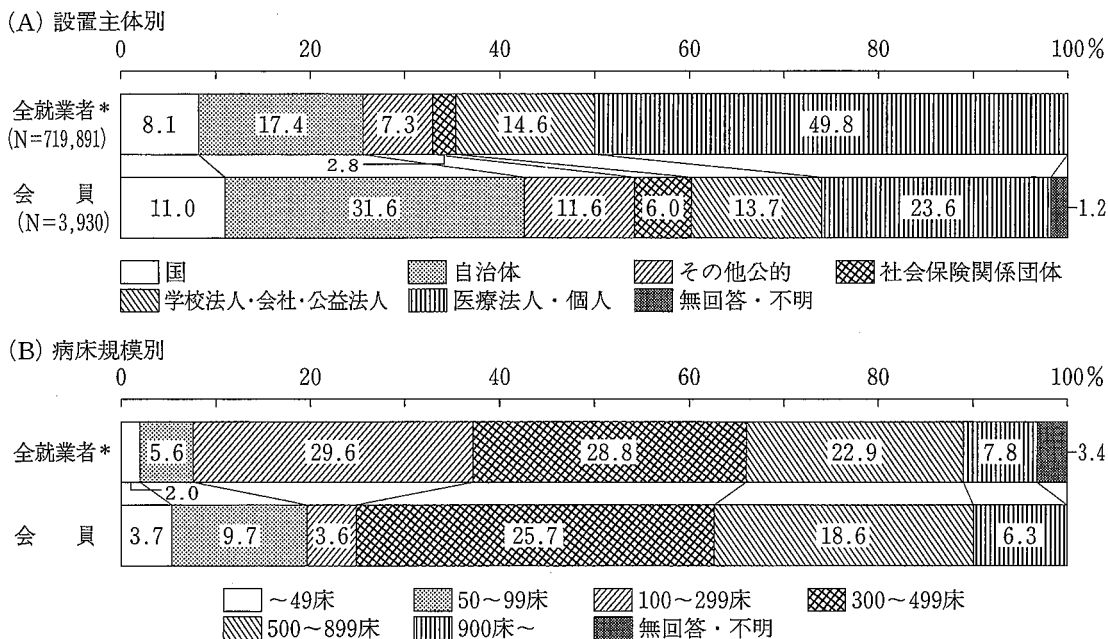
2 性別

全就業者と調査回答者(会員)の性別を比較したものが〈図5〉である。男性の構成比は調査回答者のほうが低い。

3 年齢

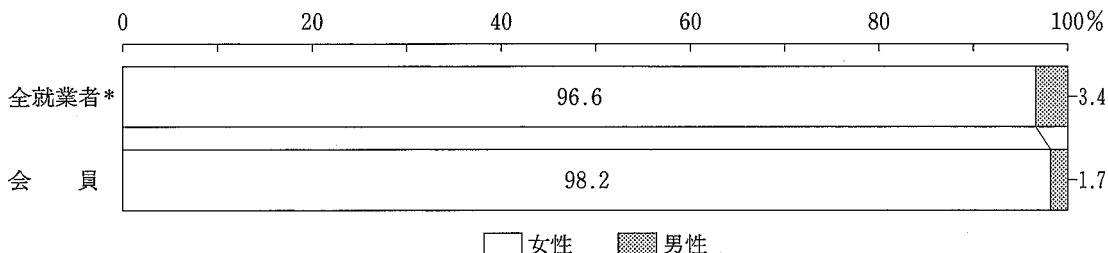
第1回調査から今回の調査まで会員の平均年齢の推移を業務別に示したものが〈図6〉である。准看護婦・士の平均年齢は1965年から回を追うご

図4 病院勤務者の構成—全就業者と調査回答者(会員)との比較



*全就業者は「病院報告(平成8年)」による。

図5 性別



*平成8(1996)年末の全国の就業者数(看護問題研究会監修 平成10年「看護関係統計資料集」より)。

*全就業者の男性は保健士を含めていない。

とに上がりつづけており、97年調査では業務別に見て最も高い。他の業務では平均年齢の年次変化はあまりない。

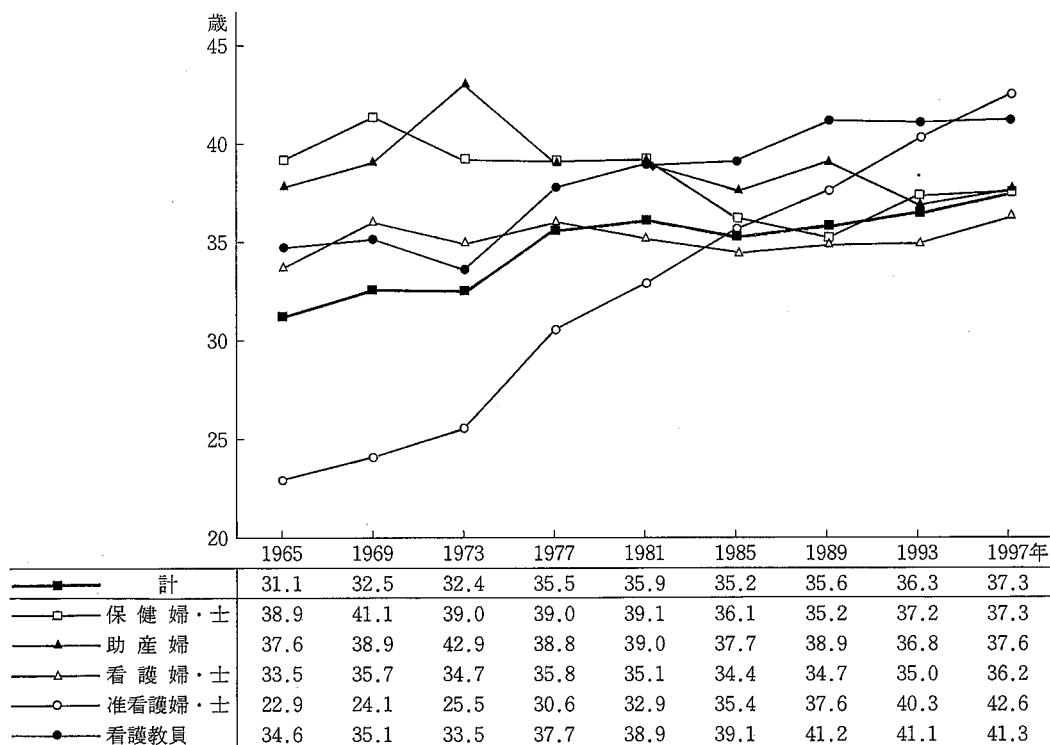
また1981(昭和56)年、第5回調査以降の会員の年齢構成の推移を示したものが〈図7〉である。25歳~29歳までの年齢層が最も多いことはこれま

でと変わらないが、その比率は今回が最も低い。一方、45歳~49歳の比率がこれまでになく上がっている。

4 配偶関係

会員全体と20代、30代の会員および女子雇用労

図6 業務別会員の平均年齢の推移



働者の離死別を含めた既婚率の推移を示したのが〈図8〉である。会員全体の既婚率は81年調査(64.8%)以降横ばいで、97年調査では62.5%である。女子雇用労働者の既婚率が56.7%であることから、会員の既婚者比率は女子雇用労働者の中では高いといえる。しかし、97年調査では93年調査と比べて20代、30代が共に下降線を示しており、晩婚化傾向がみられる。

5 子 供

既婚者のうち85.4%が子供を持っている〈統計表第15表〉。子供の平均人数は2.1人。既婚者で子供を持っている人の14.5%が2歳未満の乳幼児を持っており、就学前の子供がいる比率は29.9%(89年調査41.4%、93年調査33.8%)で、減少傾向にある。

6 学 歴

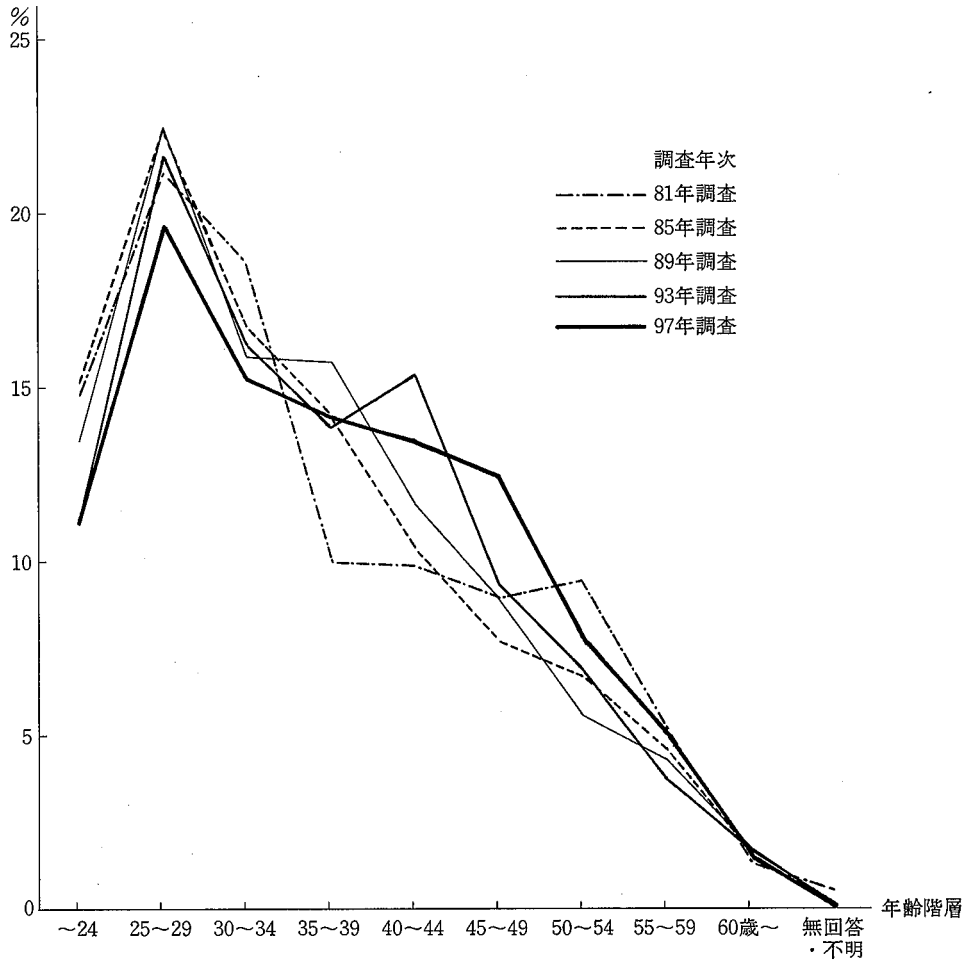
(1) 一般学歴

「中学」5.6%(93年調査6.8%)、「高校」77.8%(同80.4%)、「旧教育制度」0.4%(同1.1%)は93年調査と比べて減少した。「短期大学」9.3%(93年調査7.9%)、「大学」2.7%(同2.1%)、「大学院」0.4%(同0.1%)は93年調査より増えており、一般学歴はわずかながら高学歴化している〈統計表第30表〉。

(2) 専門学歴

専門学歴も一般学歴と同様、「旧教育制度」卒業者が0.5%と93年の1.4%と比べて減少している〈統計表第27表〉。同様に93年調査と比べて比率が下がったのは、「准看護婦学校」10.4%(93年調査13.4%)、「高校専攻科(進学コース)」3.3%(同

図7 年齢構成の推移



4.8%),「保健婦学校」4.6%(同6.7%)である。

93年調査よりも比率が上がっているのは、「進学コース」28.6%(93年調査26.7%),「看護短大」4.9%(同4.0%),「看護系大学院修士課程」0.2%(同0.0%)。この修士課程卒業者は、1名が看護婦として勤務しているほかは、看護教員として勤務している(統計表第27表)。

7 所持免許

年代別に所持免許別の回答者の構成を前回(93年)調査と比較したものが(表2)である。すべ

ての年齢層において助産婦、准看護婦免許所持者の比率が下がっている。

8 経験年数

年齢階層別に会員の看護職としての通算経験年数(以降経験年数という)の平均の推移を示したものが(図9)である。平均経験年数は、1977年調査以降大きな変化はない。勤務場所別にみると、病院勤務者の経験年数が14.8年と、93年調査13.9年、89年調査12.9年と比べて長くなっている(統計表第37表)。

図8 既婚率（離死別を含む）の推移

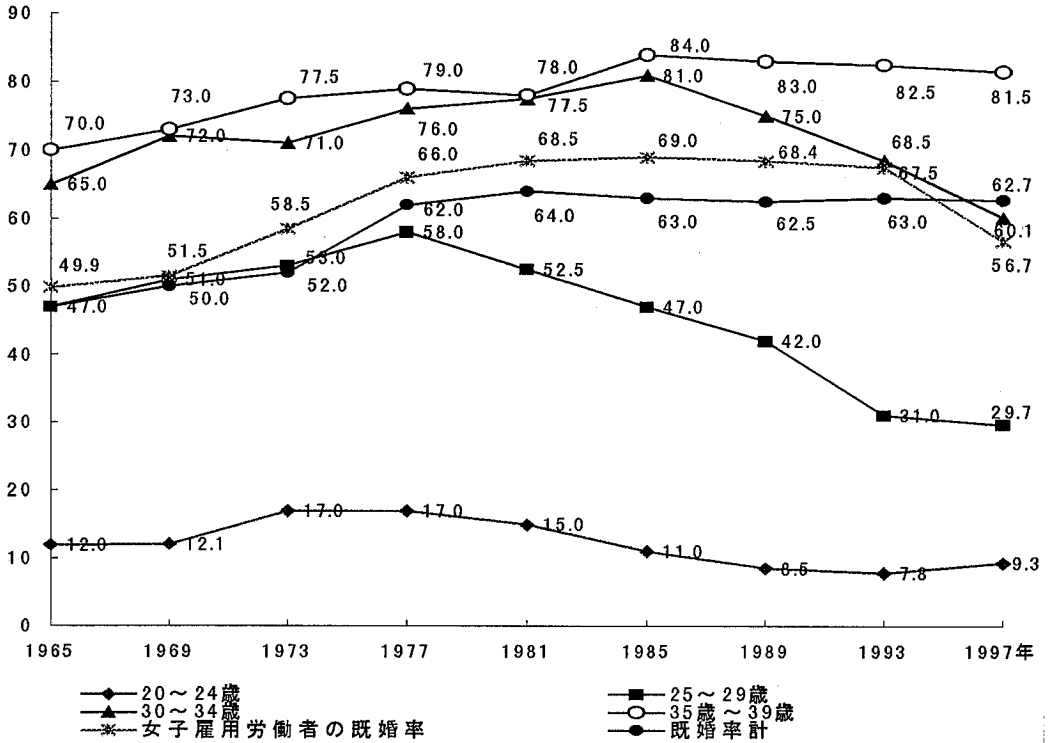


表2 年代別所持免許の構成（複数回答）

(%)

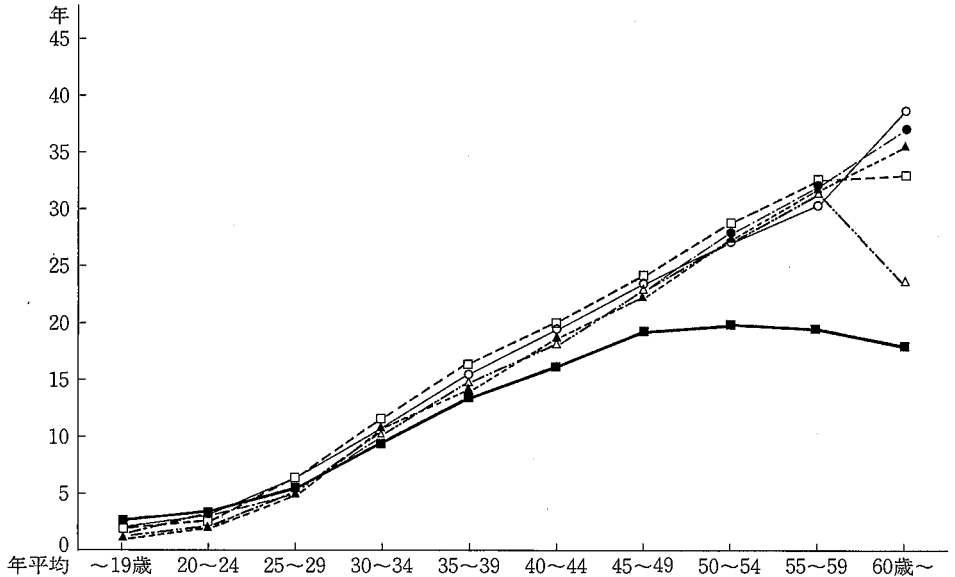
	保健婦・士		助産婦		看護婦・士		准看護婦・士	
	1997年	1993年	1997年	1993年	1997年	1993年	1997年	1993年
計	9.0	10.2	5.6	7.8	87.9	85.6	29.7	50.3
20代	7.6	8.0	4.1	6.3	93.5	91.9	24.6	48.3
30代	10.1	11.5	5.7	7.1	92.0	89.5	26.3	47.9
40代	8.3	10.7	6.5	7.7	82.9	77.5	34.7	58.3
50代	10.1	9.9	5.0	8.8	74.2	72.5	40.8	51.2
60代	14.9	15.7	20.3	39.1	94.6	77.9	10.8	—

9 会員年数

11.9年、89年調査10.5年と比べて長くなっている（統計表第41表）。

日本看護協会の会員としての通算年数（これ以降会員年数という）は、平均で13.1年で、93年調

図9 年齢階層別平均経験年数



年平均	~19歳	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60歳~
—■— 1977年 10.9年	2.5	3.1	5.4	9.3	13.5	16.0	19.2	19.9	19.7	17.9
- - □ - - 1981年 14.6年	2.0	3.0	6.4	11.3	16.1	19.9	24.0	28.8	32.7	32.9
- - ▲ - - 1985年 12.7年	1.0	2.0	5.2	10.3	13.9	18.6	22.3	27.3	31.6	35.3
- - △ - - 1989年 13.2年	1.0	2.0	5.5	10.2	14.7	18.2	23.0	27.1	32.0	23.6
- - ○ - - 1993年 14.4年	2.0	2.9	6.2	10.8	15.3	19.5	23.5	27.3	30.3	38.5
- - ● - - 1997年 15.2年	1.7	2.8	6.1	10.7	15.2	19.5	23.5	27.9	32.1	36.9